



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年8月1日

上場会社名 株式会社 デサント 上場取引所 東
 コード番号 8114 URL http://www.descente.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石本 雅敏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 辻本 謙一 (TEL) 06-6774-0365
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日~平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	30,180	8.0	982	△25.2	1,068	△24.0	764	△26.9
29年3月期第1四半期	27,935	△3.6	1,313	5.9	1,406	△4.8	1,045	△10.2

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 2,041百万円(—%) 29年3月期第1四半期 △1,389百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	10.14	—
29年3月期第1四半期	13.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	105,693	71,286	67.4
29年3月期	106,976	70,944	66.3

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 71,286百万円 29年3月期 70,944百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	23.00	23.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	0.00	—	23.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日~平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	66,000	5.6	3,100	△9.8	3,200	△14.5	2,000	△25.3	26.55
通期	139,000	5.7	8,400	△0.2	8,600	△0.4	5,700	0.9	75.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料9ページ「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	76,924,176株	29年3月期	76,924,176株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	1,586,804株	29年3月期	1,586,804株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	75,337,372株	29年3月期1Q	75,337,445株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(追加情報)	10
3. 補足情報	11
海外売上高	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の売上高は30,180百万円（前年同四半期比8.0%増）、営業利益は982百万円（前年同四半期比25.2%減）、経常利益は1,068百万円（前年同四半期比24.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は764百万円（前年同四半期比26.9%減）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

（セグメント別売上高）

セグメントの名称	売上高(百万円) (前年同四半期比)	セグメント利益又は損失(百万円) (前年同四半期比)
日 本	11,573 (108.9%)	△822 (前年同四半期△906百万円)
ア ジ ア	18,102 (108.1%)	2,069 (87.7%)
欧 米	504 (89.5%)	△268 (前年同四半期△270百万円)
調 整 額	—	4 (前年同四半期130百万円)
合 計	30,180 (108.0%)	982 (74.8%)

（日本）

アスレチックウェアにおいて全体的に順調に推移しました。特に「デサント」は好調に推移しました。ゴルフウェアにおいては「マンシングウェア」は苦戦しましたが、その他のブランドが好調に推移しました。結果、日本全体として売上高は前年実績を上回り、損益面においても前年より損失は縮小しました。

（アジア）

各国およびブランドによりばらつきはあるものの、韓国においては「デサント」、中国においては「アリーナ」、香港においては「デサント」、シンガポールにおいては「ルコックスポルティフ」が順調に推移しました。アジア全体として売上高では前年を上回りましたが、粗利益率の悪化と販管費の増加により利益は昨年を下回りました。

（欧米）

売上高は前年を下回りましたが、損失は前年並となりました。

品目別売上高の状況は次のとおりであります。

（品目別売上高）

区 分	金 額	構 成 比	前年同四半期比
アスレチックウェア及びその関連商品	百万円 21,750	% 72.0	% 111.2
ゴルフウェア及びその関連商品	6,964	23.1	102.3
アウトドアウェア及びその関連商品	1,465	4.9	93.5
合 計	30,180	100.0	108.0

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(アスレチックウェア及びその関連商品)

アスレチックウェアにおいては、「デサント」では、英国トライアスロン連盟、公益財団法人日本自転車競技連盟、公益財団法人全日本空手道連盟とオフィシャルサプライヤー契約を締結し、各団体へのウェアやシューズ等のサプライを開始しました。サプライを通じ、商品開発力の強化およびグローバルでのブランド認知拡大、ブランド価値の向上を推進します。国内においては、2015年に展開を始めた新しいライフスタイル提案の直営新業態である「デサント ブラン」とファッションセレクトショップがコラボレーションしたポップアップショップをオープンし、双方のショップが1つの店舗を作り上げるという新しい試みを「MARK IS (マークイズ) みなとみらい」(横浜)で行いました。また、中国においては当社の関連会社である「デサントチャイナ有限公司」が、3月に北京市と黒龍江省で「デサント」ブランドの直営店を新たに2店舗オープンしました。「ルコックスポルティフ」においては、サイクルロードレース「第20回ツアー・オブ・ジャパン」のオフィシャルサプライヤーとなり、各ステージにおけるリーダージャージのサプライをいたしました。また「ワングローバルブランド」政策の1つとして、フランス出身のアーティスト ジャン ジュリアン氏とコラボレーションした商品の展開およびプロモーションをアジア数カ国で実施しました。「アリーナ」においては、2015年世界水泳選手権大会400m個人メドレー金メダリストの瀬戸大也(せとだいや)選手(所属:ANA/JSS毛呂山)と、2017年4月から5年間にわたる水着等のスポーツウェアに関するアドバイザリー契約を更新しました。また中国においては、2016年12月に設立した「アリーナ上海実業有限公司」が直営店を40店舗オープンさせ、本格的に営業を開始しました。韓国においては、当社と当社の在韓国子会社であるDESCENTE KOREA LTD.と「アリーナ」ブランドのスイム用品の独占販売代理店であるDONGIN SPORTS CO., LTD.との間で、合弁会社「アリーナコリア株式会社」を設立する契約を締結いたしました。合弁会社の営業開始は10月初を予定しております。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

ゴルフウェアにおいては、「マンシングウェア」「ルコックスポルティフ(ゴルフ)」「カッターアンドバック」「ランバン スポール」「デサント(ゴルフ)」「スリクソン」の6ブランド合同で『ゴルフ大好き!キャンペーン』の第一弾を実施しました。内容としてはゴルフコンペ賞品として使用できる「デサント6ブランドグッズ総額500万円相当」が当たるオープン懸賞と「第48回マンシングウェアレディース東海クラシック最終日セッティングのスペシャルラウンドご招待!」が当たるクローズド懸賞を実施しました。第二弾は2017年9月9日から実施予定です。「マンシングウェア」では旗艦店を、2018年春に東京・銀座にオープンします。ゴルフウェアはもちろん、日常シーンでも着用していただけるウェアも新たに展開し、ゴルフを愛する人々の上質なクラブハウススタイルを提案します。トレンド発信地である銀座に旗艦店を出店することでブランド価値の向上につなげ、そのブランドイメージを様々な世代や世界の人々が集まる銀座から発信します。「ルコックスポルティフ」ではキムハヌルプロが「サントリーレディス」にて今期3勝目、鈴木愛プロは6月に開催された「アース・モンダミンカップ」にて今期2勝目をあげるなど契約選手が活躍しており、ブランド価値の向上に貢献しています。

その他のトピックスとして、当期より、株式会社デサントをグローバル本社とする新たなグループ体制での事業運営を開始いたしました。子会社であるデサントアパレル株式会社の吉野工場(奈良県吉野郡)の移転・建て替えを実施し、4月13日に竣工式を行いました。新たな工場は、小ロット短納期の商品の生産能力を拡充し、また、アトリエ機能(型紙作成から縫製までのサンプル作成を行う機能)の増強により、サンプル作成を効率的に行い、設計開発力も拡充します。当社は、昨年5月に発表した中期経営計画「Compass 2018」において、当社の競争力の源泉である「モノを創る力」を向上させることを重点戦略の一つとして掲げています。また、5月25日(木)に、「第30回全国優秀店舗表彰式」を開催し、優秀店舗として9の売場と新人賞1名、さらに第30回という節目に特別賞を設け、セールスコーディネーター(販売職)1名と1売場を表彰しました。今後もセールスコーディネーターの能力向上につながる研修や表彰などで「売場を創る力」の向上に努めます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は105,693百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,283百万円減少致しました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ2,474百万円減少し、70,921百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少4,346百万円、受取手形及び売掛金の減少2,251百万円、商品及び製品の増加3,713百万円などによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ1,191百万円増加し、34,772百万円となりました。

負債合計は前連結会計年度末に比べ1,625百万円減少し、34,406百万円となりました。これは主に賞与引当金の減少480百万円などによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ342百万円増加し、71,286百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少934百万円、為替換算調整勘定の増加1,290百万円などによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.1%増の67.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは各ブランドがフォーカスする特定セグメントでNo. 1になることを目標に掲げた「VISION 2020」の達成に向けて、グローバルレベルでの一貫性のあるブランド戦略の構築、競争力の源泉である「モノを創る力」、自主管理店舗推進のための「売場を創る力」の向上、更にそれらを支える経営インフラとロジスティクス体制の整備等を重点戦略として取り組んでいきます。数値目標は、2020年度に売上高2,000億円、経常利益160億円としています。

通期連結業績予想につきましては、2017年5月12日の決算短信で公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,806	18,459
受取手形及び売掛金	20,484	18,233
商品及び製品	24,069	27,782
仕掛品	130	122
原材料及び貯蔵品	1,056	915
その他	4,904	5,475
貸倒引当金	△55	△68
流動資産合計	73,395	70,921
固定資産		
有形固定資産	17,732	18,553
無形固定資産		
のれん	2,294	2,181
その他	4,330	4,138
無形固定資産合計	6,624	6,319
投資その他の資産		
その他	9,328	10,010
貸倒引当金	△105	△110
投資その他の資産合計	9,223	9,899
固定資産合計	33,580	34,772
資産合計	106,976	105,693
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,801	16,782
1年内返済予定の長期借入金	366	366
未払法人税等	1,035	982
賞与引当金	893	412
返品調整引当金	955	1,041
その他	6,921	5,585
流動負債合計	26,975	25,170
固定負債		
長期借入金	4,658	4,546
退職給付に係る負債	1,043	1,104
その他	3,354	3,584
固定負債合計	9,057	9,236
負債合計	36,032	34,406

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,184	25,184
利益剰余金	41,348	40,413
自己株式	△672	△672
株主資本合計	69,706	68,771
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	895	857
繰延ヘッジ損益	△26	△29
為替換算調整勘定	602	1,893
退職給付に係る調整累計額	△232	△206
その他の包括利益累計額合計	1,237	2,515
純資産合計	70,944	71,286
負債純資産合計	106,976	105,693

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	27,935	30,180
売上原価	11,499	12,905
売上総利益	16,435	17,275
返品調整引当金戻入額	151	—
返品調整引当金繰入額	—	90
差引売上総利益	16,586	17,184
販売費及び一般管理費	15,273	16,201
営業利益	1,313	982
営業外収益		
受取利息	49	80
受取配当金	25	26
持分法による投資利益	46	8
その他	36	31
営業外収益合計	156	147
営業外費用		
支払利息	12	28
固定資産除却損	28	13
為替差損	21	8
その他	0	11
営業外費用合計	63	62
経常利益	1,406	1,068
税金等調整前四半期純利益	1,406	1,068
法人税、住民税及び事業税	499	439
法人税等調整額	△138	△135
法人税等合計	361	304
四半期純利益	1,045	764
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,045	764

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	1,045	764
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△222	△37
繰延ヘッジ損益	71	△2
為替換算調整勘定	△2,278	1,244
退職給付に係る調整額	40	26
持分法適用会社に対する持分相当額	△45	46
その他の包括利益合計	△2,434	1,277
四半期包括利益	△1,389	2,041
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,389	2,041

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,625	16,746	563	27,935	—	27,935
セグメント間の内部売上高 又は振替高	174	27	49	251	△251	—
計	10,800	16,773	613	28,187	△251	27,935
セグメント利益又は損失	△906	2,359	△270	1,183	130	1,313

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額130百万円には、セグメント間取引消去135百万円、棚卸資産の調整額△5百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,573	18,102	504	30,180	—	30,180
セグメント間の内部売上高 又は振替高	331	113	15	460	△460	—
計	11,905	18,215	520	30,640	△460	30,180
セグメント利益又は損失	△822	2,069	△268	978	4	982

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額4百万円には、セグメント間取引消去13百万円、棚卸資産の調整額△8百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

3. 補足情報

海外売上高

前第1四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

(単位:百万円、%)

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	17,147	178	412	17,738
II 連結売上高				27,935
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	61.4	0.6	1.5	63.5

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

(単位:百万円、%)

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	18,182	205	678	19,066
II 連結売上高				30,180
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	60.2	0.7	2.2	63.2

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。